

■ 市長から市民のみなさんへ

市長 白井博文



■ 東日本大震災の支援について

前号でお知らせしました後、水道局からは第4次隊(3名ずつ)までを送り出しました。また、要請を受け4月2日に下水道課の職員(4名)を、4月6日には病院局の放射線技師(1名)を東北の被災地に派遣しました。保健師も4月17日に出発の予定で、まだまだ続きそうです。こうした県の要請と別に、全国市長会から、ほぼ壊滅状態に近い東北の自治体を再建するための行政職員の派遣要請が来ました。こちらは数週間という短期のものから、数ヶ月から数年という長期の派遣まで求めています。合併後、財政上の理由から職員数(特に行政職)を大幅に減らしてきた本市だけに、この要請への対応には苦慮しています。

4月4日、福島市といわき市に単独で救援物資を送る宇部市のトラック便に本市の救援物資を積み込みました。市民のみなさんからたくさん出していただいた救援物資も、これであらかな被災地に送り届けることができました。

■ がんばろう日本

■ がんばろう山陽小野田市

東日本大震災を受けて、3月いっぱいまではすべてのイベントに自粛を求めてきましたが、4月からは私たちが元気になって、物資も人も、そして明るい気持ちも東日本に送りたいと考えました。

市民のみなさんには、「がんばろう日本」とともに「がんばろう山陽小野田市」にも最大限のご協力をお願いします。

■ 春の異動について

「年々歳々花相似たり 年々歳々人同じからず」3月末、33名の職員が定年等で市役所を去りました(小・中学校の教職員は別に54名)。そのあと、若い職員が21名(教職員数は離任者と同じ)着任しました。全国的に就職難で、そのせいか本市に着任した新職員はみな難関を突破した優秀な職員ばかりです。大切に、しかし厳しく、市民のみなさんの期待に十分応えられる職員に育てるつもりです。お気づきがありましたら、市長あてにご一報ください。また、ご提案がありましたら、参考にさせていただこうと考えています。

■ 市立病院が生まれ変わります

本市の市立病院(山陽小野田市民病院)は、年に延べ17万人の方に利用していただいておりますが、かなり老朽化が進み、利用者には何かとご不便をかけています。幸い3月の市議会で、平成26年度(平成27年3月末)までに、現在地(正確には今の駐車場)に新病院を建てる事が承認されました。今年と来年の2か年かけて、基本設計から実施設計までの作業を終える予定です。保健・福祉との連携をより一層強化し、市立病院に地域の総合医療センターの役割を担ってもらおうべく、4月から健康増進課内に「地域医療対策室」を新設しました。新病院の誕生が待ち遠しいです。

対話の日 4月28日(木) 14:00～
鴨庄西自治会館